

# 国語科学習指導案

福山市立泉小学校 下川 一平

1 日 時 令和4年11月15日（火）第3校時

2 学 年 第2学年1組 男子8名 女子10名 計18名

3 単元名 せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう

「馬のおもちゃの作り方」「おもちゃの作り方をせつめいしよう」

（光村図書「こくご二下 赤とんぼ」）

## 4 単元について

### (1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕「B 書くこと」（1）イの指導事項「自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。」、「C 読むこと」（1）アの指導事項「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。」を受けて設定している。

教材文「馬のおもちゃの作り方」の題材である「おもちゃ作り」は、児童が、おもちゃを作るために何度も事柄の順序の一つである作り方の手順を確かめながら文章を読む必然性が生じる。本教材文は、おもちゃの作り方の手順が文章と写真で示されており、児童がおもちゃの作り方をイメージしやすくなっている。児童は、教材文から、見出しや写真の工夫があったり、順序を表す言葉が使われていたりするなど、読み手に伝わりやすくなる工夫がされていることに気付くことができる。

また、おもちゃの作り方を説明している文章を読むだけでなく、続けておもちゃの作り方の説明書を児童自身が書く学習を行うことで、文章を読んだ際に学んだ、分かりやすく作り方を説明する工夫を使って文章を書こうという意識がされやすくなると考える。

こうした流れで学習することにより、手順に沿って説明することの必要性やよさを児童が実感し、効果的に事柄の順序を考えながら文章を読んだり、自分の思いが明確になるように、事柄の順序に沿って構成を考えて文章を書いたりする力を身に付けることに繋がると考える。

### (2) 児童観

本学級の児童は、これまでに「たんぼぼのちえ」「どうぶつ園のじゅうい」の学習において、季節や時刻といった時間の順序に注意して説明的な文章を読んできている。総じて、児童らの学習に対する意欲は高く、進んで自分の意見を発表しようとする児童が多く見られる。しかし、叙述をもとにして自分の意見を述べることや、自分の意見を整理して発信することが難しい児童もいる。そのため、叙述をもとに意見を述べるために、文章を読んで見付けた重要な語や文を自分の意見の根拠とさせたり、自分の意見を整理して伝えるために結論から述べるように声掛けを行ったりしている。

1学期の説明的な文章の単元テストでは、「たんぼぼのちえ」の正答率は85%で、「どうぶつ園のじゅうい」の正答率は80%であった。単元テストの設問の難易度が高いものではなかったことを考慮すると、時間的な順序や事柄の順序を考えながら内容の大体を捉える力が十分に身に付いていないと言える。また、家庭学習で書かせている日記等の文章を、時間的な順序が分かるように書いている児童はほとんどいない。そのため、本単元においても、事柄の順序のみを限定的に取り上げるのではなく、時間的な順序を考えて文章を読んだり書いたりするよさについても想起させながら学習を進める必要があると考える。

### (3) 指導観

指導に当たっては、生活科「つくる楽しさはっけん」と関連させ、自分で考えたおもちゃを1年生に作ってもらうために、分かりやすい作り方の説明書を書こう、という学習上の意欲と説明書の書き方を学ぶ必然性をもたせる。

教材文「馬のおもちゃの作り方」を読む学習では、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉える力を確実に身に付けさせるために、次のような指導上の工夫を行う。まず、文章の小見出しに着目させることで、事柄の順序に含まれる文章全体の構成という文章表現上の順序を捉えられるようにする。次に、おもちゃの作り方の手順という事柄の順序を捉えることができるように、作業手順ごとに文章を予め切り分けておき、冒頭部分の文章を見て並び替えをさせることで、楽しみながら作り方の手順の順序性に気付かせたい。その際、必要な長さや数、向きなどの、読み手が正しくおもちゃを作る上で欠かせない説明の工夫

を見付けさせる。こうした学習の中で気付かせた事柄の順序への理解や、想起させた時間的な順序への理解から、「文章の内容を理解するためには、順序よく構成することが欠かせない」といった概念獲得につなげたい。

こうした気付きを、自分の説明書に取り入れながら文章を書くことで、さらに確かな理解へとしていきたい。自分が書いたおもちゃの説明書は、友達に読んでもらうだけでなく、実際に読み手に作らせることで、1年生に作り方の手順が伝わる構成になっているかという視点で内容を確認したり、自分の文章や相手の文章のよいところや改善点を見いだしたりすることができると思う。

## 5 単元目標

- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能] (2) ア
- 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] B (2) イ
- 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。 [思考力, 判断力, 表現力等] C (1) ア
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力, 人間性等」

6 単元の評価規準

おもちゃ作り方を説明する文章を読み，学んだことを生かしておもちゃの作り方の説明書を書くことを通した指導【言語活動例 B（2）ア及びC（2）ア】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。（（2）ア）	○「書くこと」において，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。（B（1）イ） ○「読むこと」において，事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えている。（C（1）ア）	○進んで，自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って構成を考え，学習課題に沿って，1年生に伝えるために，おもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。

<評価の具体及び手立て>

	評価規準【「おおむね満足できる」状況（B）】	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手立て																										
思考・判断・表現	<p>時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体をとらえている。</p> <p>ワークシート</p> <p>教材文から引用したおもちゃを作る過程の写真</p> <table border="1"> <tr> <td>写真</td> <td>写真</td> <td>写真</td> <td>写真</td> <td>写真</td> </tr> <tr> <td>これで、馬のおもちゃのできあがりです。</td> <td>さいごに、顔を作ります。</td> <td>それから、馬のあしを作ります。</td> <td>つぎに、馬の体を作ります。</td> <td>まず、馬の体や、あしになるふんを作ります。</td> </tr> </table> <p>写真に合わせて文を並び替える</p> <p>ワークシート</p> <table border="1"> <tr> <td>楽しみ方</td> <td>作り方</td> <td>材料と道具</td> <td>前書き</td> <td>これで</td> <td>最後に</td> <td>次に</td> <td>まず</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>上の項目に合うように文を書かせる</p> <p>一年生に伝えられるように，事柄の順序に沿って簡単な構成（前書き，材料，作り方，楽しみ方）を考えている。</p>	写真	写真	写真	写真	写真	これで、馬のおもちゃのできあがりです。	さいごに、顔を作ります。	それから、馬のあしを作ります。	つぎに、馬の体を作ります。	まず、馬の体や、あしになるふんを作ります。	楽しみ方	作り方	材料と道具	前書き	これで	最後に	次に	まず									<p>「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 順番を並び替えることはできるが，内容の大体を捉えることができない児童には，「まず」「次に」といった順序を表す接続詞だけでなく，写真に着目させ，手順が連続していることを確認できるようにする。</li> <li>・ 文章を読むことに課題がある児童には，文章を読みながらおもちゃ作りをしたり，一人や二人，教師を含めた小グループを自分で選択して作業をしたりできるようにする。</li> <li>・ 書くことができない，または構成を考えることができない児童には，作り方を一文でまとめられるように短冊を用意したり，四つの構成に分けたワークシートを活用したりするなど実態に応じて活動を進められるようにする。</li> </ul>
	写真	写真	写真	写真	写真																							
これで、馬のおもちゃのできあがりです。	さいごに、顔を作ります。	それから、馬のあしを作ります。	つぎに、馬の体を作ります。	まず、馬の体や、あしになるふんを作ります。																								
楽しみ方	作り方	材料と道具	前書き	これで	最後に	次に	まず																					

7 指導と評価の計画（全 14 時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法等
	0	<p>○生活科「つくる楽しさはっけん」の学習で、自分で考えたオリジナルのおもちゃを作って遊んでみる。</p> <p>○1年生に伝えるために、自分で考えたオリジナルのおもちゃの作り方を書く。</p>				
一	1 2	<p>○教材文「馬のおもちゃの作り方」を読み、実際に作ってみる。</p> <p>○児童が作るときに難しいと感じた経験や感想から学習課題をつかみ、学習計画を立てる。</p>				
	3 4 5	<p>○題名や小見出しに着目して教材文を読み、文章全体の構成を捉える。</p> <p>○事柄の順序のわかる言葉に着目して考えるために、作業ごとの文章を並べ替え、「作り方」の文章の構成を捉える。</p>		○		<p>[思考・判断・表現] 児童の様子, ワークシート ・事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。</p>
二	6 7 8 (本時)	<p>○作り方が具体的に書かれたものと書かれていない文章を比べ、教材文の読み手に伝えるための工夫を見つける。</p> <p>・馬の体やあしになる部品</p> <p>・馬の体</p> <p>・馬の足と顔</p> <p>○馬のおもちゃの作り方を1年生に伝えるとしたらどのような工夫ができるのか考え、説明を加える。</p>	○			<p>[知識・技能] 児童の様子, ワークシート ・事柄の順序など、情報と情報との関係について理解している。</p>
三	9 10 11 12 13 14	<p>○オリジナルおもちゃの説明書を書く。</p> <p>○自分オリジナルのおもちゃの説明書を読み返し、「馬のおもちゃの作り方」のような文章構成になっているか確認する。</p> <p>○完成した説明文を読み合い、アドバイスをする。</p> <p>○説明書の清書を行う。</p> <p>○全体を通して、学習して良かったことや気づいたことを振り返る。</p>	○	○		<p>[主体的な学習に取り組む態度] 児童の様子, ワークシート ・進んで、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って構成を考え、学習課題に沿って、1年生に伝えるために、おもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。</p> <p>[思考・判断・表現] ワークシート ・自分の思いや考えをが明確になるように説明の順序に沿って、構成を考えながら文章を書いている。</p>

8 本時の学習

(1) 本時の目標

事柄の順序など情報と情報との関係を理解することができる。

(2) 学習の展開 (7/14時)

学習活動	○指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準と評価方法
<p>1. 前時の学習を振り返る。</p> <p>2. 学習課題を確認する。 めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「馬の体」の作り方の説明の工夫を見つけよう。</p> </div>	<p>○馬の体やあしになる部品を作る際に見つけた分かりやすく説明する工夫（長さや数、写真など）を振り返り、次の「馬の体のつくり」でも同じ工夫がされているのかという視点で学習課題がもてるようにする。</p>	
<p>3. 教材文の「馬の体の作り方」の部分を読みながら、馬のおもちゃを作る。</p> <p>4. 「馬の体の作り方」を読み手に分かりやすく伝えるための説明の工夫を考える。</p> <p>5. 全体で、見付けた説明の工夫を交流する。 ・「横向き」「たて」「おなかの上」など、位置が詳しく説明されていた。 ・前と同じように写真があった。</p> <p>6. 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○実際におもちゃを作ることで、教材文を読んだ際になぜ分かりやすいと感じたのか、なぜ一読しただけでは分からなかったのかについて体感できるようにする。</p> <p>○児童一人で、あるいは2、3人の小グループで教材文を読みながらおもちゃを作るコースと、教師と一緒に読みながら作るコースを自分で選ばせることで、それぞれの児童が自分に合った方法で説明の内容を確かめられるようにする。</p> <p>◆教師と一緒に作るコースでは、一文ごとに音読させ、写真を指し示しながら説明の内容を確認させることで、正しくおもちゃを作るためにどのような順序で説明されているのかを理解できるようにする。</p> <p>○馬の体の部分を作り終えた児童から、分かりやすかった説明の工夫や教材文の分かりにくかった書きぶりをノートに整理させる。分かりにくかったと感じた部分については、できそうな児童にはさらにこう書いたらよいのでは、という改善案も考えさせておく。</p> <p>○筆者の工夫の種類ごとに板書することで視覚的に振り返ることができるようにする。</p> <p>○学習活動4で改善案を考えている児童を意図的に指名し、教材文を読むだけでなく、今度は自分たちで書くという意識をもつようにする。誰も改善案を考えていなかった場合は、馬の体を作るときに困っていた児童の様子を取り上げ、どう説明したらわかりやすいか、考えさせる。</p> <p>○説明書を書くときに使いたい分かりやすい説明の工夫について書かせる。</p>	<p>事柄の順序など情報と情報との関係を理解している。</p> <p>[知識・技能]</p> <p>児童の様子、振り返りの記述内容</p>

(3) 板書計画

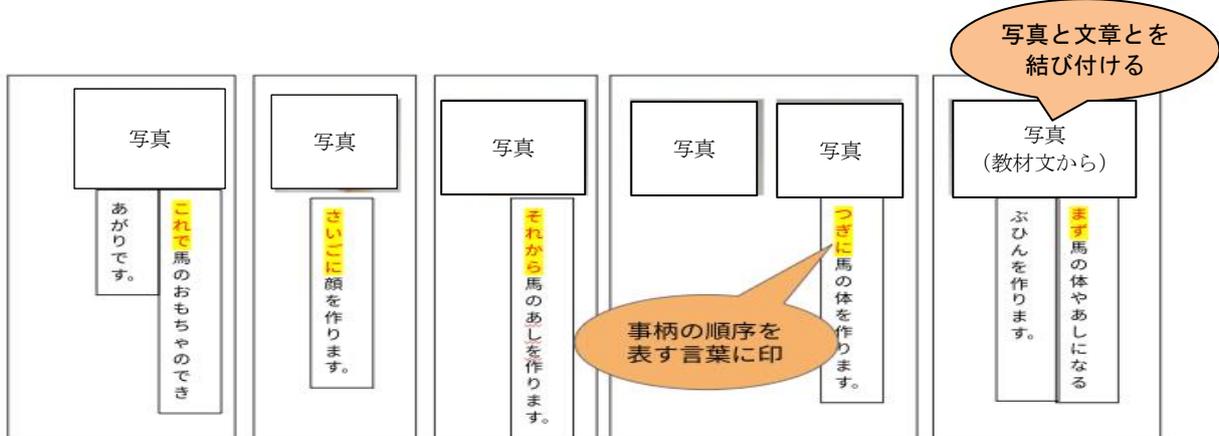
<p>写真 ニ おなかの上</p> <p>たし・たし(たし) (き)</p> <p>し し</p>	<p>はしをあわせ 一年生でも分かるように かえ ホッチキスで止める 写真に止めるように が。</p>	<p>写真②</p> <p>写真①</p>	<p>教材文の馬の体の作り方の部分を 拡大したもの</p>	<p>馬のおもちの作り方</p> <p>みやもと えつよし 文</p> <p>めあて「馬の体の作り方のせつめいの工夫を見つけてよう。」</p> <p>せつめいの工夫</p> <p>長さ・数・写真</p>
---	---	-----------------------	-----------------------------------	---

## 9 指導上の工夫

(1) 順序を表す接続詞に着目したり写真や挿絵と照応させたりしながら事柄の順序を理解させるために、文や文章を並び替える活動を行う工夫

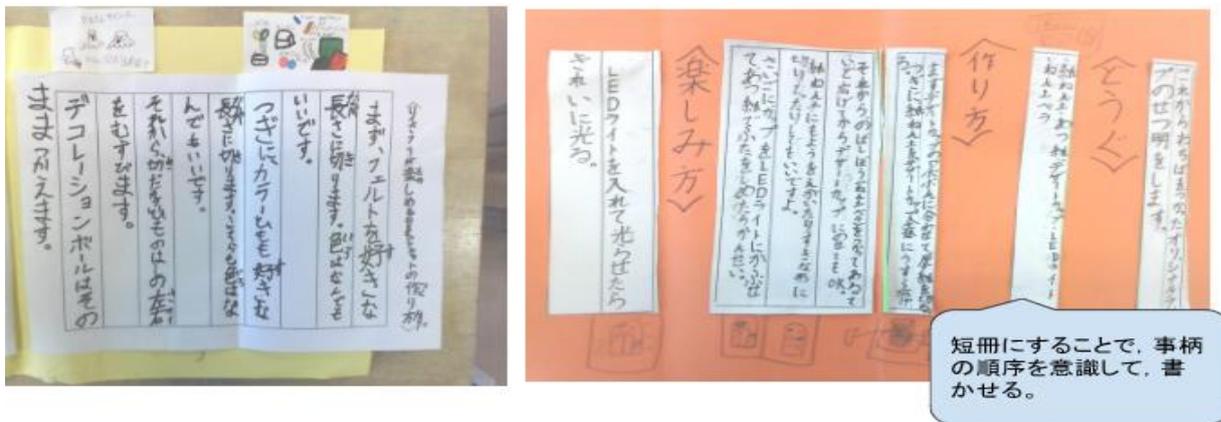
### ア 「読むこと」における指導

おもちゃの作り方の順序を捉えることができるように、作業手順ごとに文章を予め切り分けておき、順序を表す接続詞に着目しながら文を読み、写真と文を結び付けながら並び替えさせることで、事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えられるようにした。



### イ 「書くこと」における指導

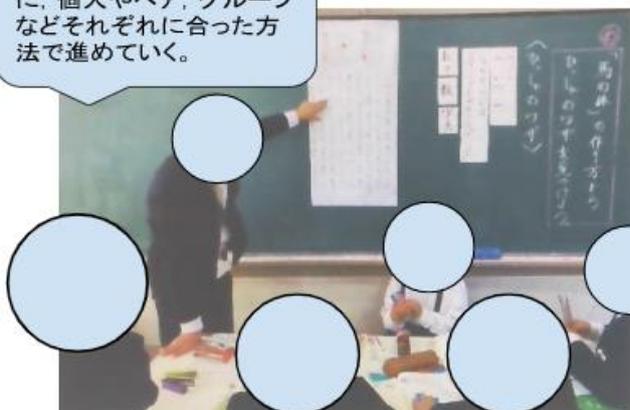
自分で説明書を書く際には短冊を使用した。これは、書くことに課題がある児童も作業手順ごとに書くことで、足りない説明を付け加えたり、必要に応じて説明の順番を並び替えたりすることを容易にするためである。



(2) 教材文から読み手に分かりやすい工夫を見付けさせるためにおもちゃを作りながら読ませる工夫

教材文を読むだけでなく、読みながらおもちゃを実際に作ることで、文章の内容と児童の体験とが結び付けやすくなり、文章の内容理解がより確実にできるようになると考えた。実際に、児童は作り手の立場から、どのように説明したら分かりやすくなるかという視点で文章を読み、見付けた工夫を話し合うことができた。

説明の工夫を見付ける際に、個人やペア、グループなどそれぞれに合った方法で進めていく。



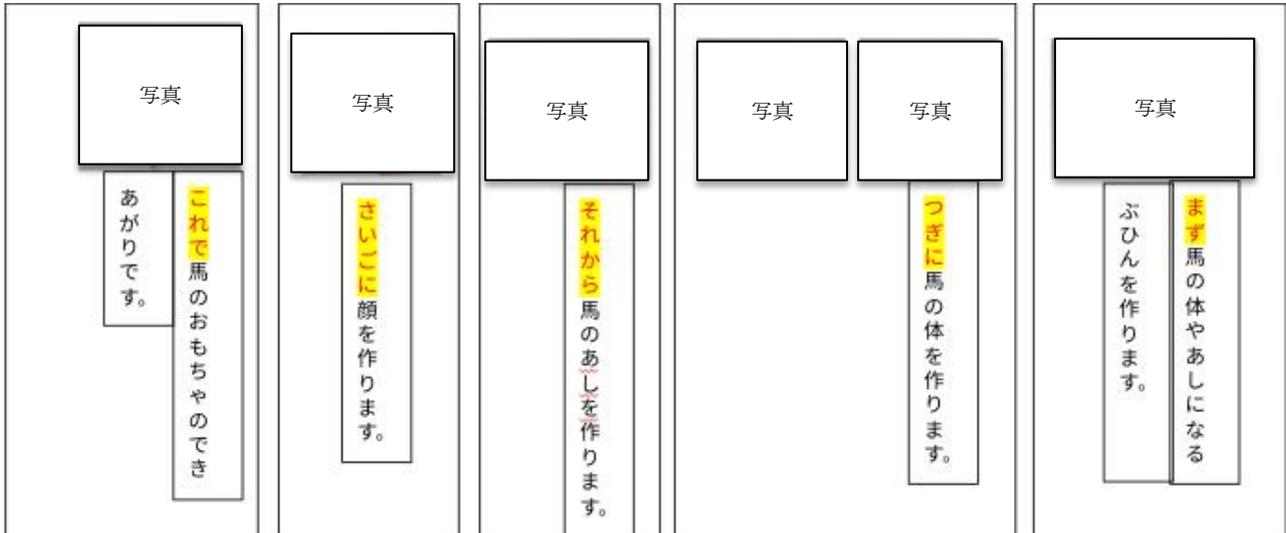
## 10 評価の実際

### (1) 「読むこと」について

学級の83%の児童をB評価以上とした。

#### ・B評価と判断した視点

写真と文とを結び付けるとともに順序を表す接続詞に着目しながら文を読み、おもちゃの作り方の手順についての事柄の順序を考えて正しく文を並び替えている。



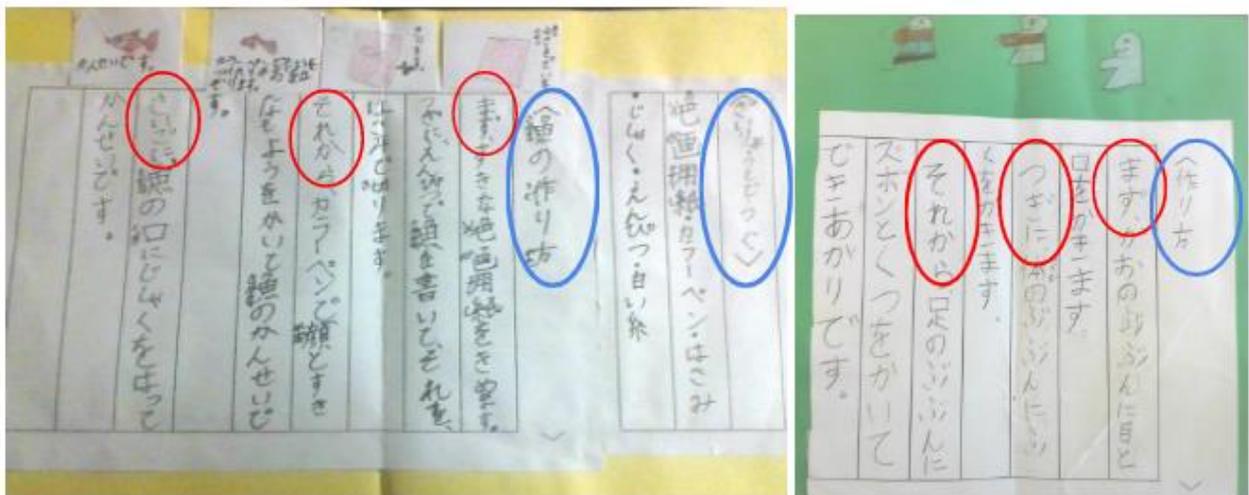
### (2) 「書くこと」について

学級の77%の児童をB評価以上とした。

#### ・B評価と判断した視点

事柄の順序に沿って、簡単な構成（前書き、材料、作り方、楽しみ方）などを考えて書いている。また、「作り方」では、「まず」「つぎに」「それから」「さいごに」といった順序を表す接続詞を適切に使って手順を説明している。

#### B評価とした児童のワークシート例



## 11 成果と課題

### 〈成果〉

「読むこと」においては、文章を読みながらおもちゃを作らせたことで、簡単な構成（前書き、材料、作り方、楽しみ方）や事物の作り方といった事柄の順序を意識して、内容の大体を読むことができた。

「書くこと」においては、「まず」「つぎに」「それから」「さいごに」という順序を表す接続詞を適切に用い、事柄の順序を考えながら、教材文を読んで見つけた説明の工夫（長さや向き等）を使って文章を書くことができた。

### 〈課題〉

語彙の不足により、自分の伝えたいことを適切に伝えるための言葉が出てこなかったり、児童自身は分かりやすく書けていると思っているが、客観的に見ると分かりやすくなっていなかったりした児童がいた。同様に、文章を読むときも、分からない言葉があることで、文章の内容を正しく捉えることができない児童がいた。

こうした課題を解決するために、定期的に読み聞かせを行ったり、図書館を活用して多様な本に親しませたりすることを通し、日常から多くの言葉に触れる機会を設ける。

また、自分の伝えたいことを文章で短くまとめることができない児童も見られた。説明に必要な語や文はどれなのか、意識して読んだり書いたりする力が身に付いていないためだと考える。今後も、「読むこと」と「書くこと」との関連を意識し、「読むこと」で身に付けた力を「書くこと」に生かせるような指導の工夫を行ったり、日常から文字数や使う言葉などの条件をつけて文章を簡潔に書くことに取り組んだりしていく。